

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10または13（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問い合わせ：03-6684-6692

11月9日（土） 迷いからの脱出—仏教の”救い”とは？
阿満利麿 先生 明治学院大学名誉教授

12月14日（土） 煩惱具足のほとけ—親鸞
伊藤 益 先生 筑波大学教授

1月11日（土） 心を見つめて迷悟を知る—三国に渡る変遷
蓑輪頌量 先生 東京大学教授

1月25日（土） 迷いからの脱出—大悲の光明に照らされて
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

2月8日（土） 迷いからの脱出
末木文美士 先生 東京大学名誉教授

2月22日（土） 迷いからの脱出
ケネス田中 先生 武蔵野大学名誉教授

3月14日（土） 迷いからの脱出—仏智に導かれ
丘山 新 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長

3月28日（土） 迷いからの脱出
島藺 進 先生 上智大学教授

大阪 時間：午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階会議室（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問い合わせ：06-6346-7000

11月15日（金） 迷いからの脱出
山田法胤 先生 法相宗大本山薬師寺長老

3月6日（金） 演題未定
奈倉道隆 先生 東海学園大学名誉教授

5月15日（金） 演題未定
西山 厚 先生 帝塚山大学文化創造学科教授

いのち尊し

第31号
いのち尊し
令和元年11月1日
公益社団法人
在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区
神田駿河台3-3
五明館ビル202号
TEL
03-6684-6692
FAX
03-6684-6709

輪読会「鈴木大拙を読む」報告4

「享乐的平安朝文化」と「大地の鼓動」

原田貞雄（協会会員）

輪読会「鈴木大拙を読む」の第四回目会合が十月十六日、在家仏教協会事務所で六名にて開催された。テキストは『日本の靈性』（角川文庫版）五十五頁の二「平安朝文化」と六十一頁の三「大地性」である。前回に引き続き、大拙氏の「靈性」の底辺に横たわっている歴史的経過を、氏ならではの鋭い感性で説き始めている。

*

大拙氏は、平安朝文化を少数貴族の支配階層による文化として『大宮人』の文化と決めつけている。平安時代は平安京に都を遷移した桓武天皇の時から鎌倉時代までの間の約三百年間である。

荘園の寄進を受けた貴族階層（公家階級）は富の寡占と律令制度、そして訳の分からない陰陽道を併用して祭祀を独断の政治施策

化し、前例中心の政權維持に使うようになった。このため祭祀行事以外にはない閉塞した政治（祭り事）が、限られた貴族の伝承行事として厳かに執り行われていった。氏が述べているように『叙位除目（じよいじもく）が「まつりごと」の全部であるといつてよい位であった。：平安文化の特徴は：「大宮人」という字の中に、これを総括しているといつてよい。ここにまた形式的硬化の影が宿って居る』と皮肉的に述べ、靈性的な自覚には程遠いと述べている。また当時の「物語」や「歌集」などに対しても厳しく、『人間の魂の底の奥から出るような叫びは、どこにも聞こえぬ』とし、『宗教は現世利益の祈りからは生まれぬ。国土安穩は靈性の生活と直接の關係を持たぬ』とズバリ切り捨てている。

次に「大地性」の話に移るが、『靈性は大地を通さなくてはならぬ。……（宗教は）農民の中から出る時に最も真実味を有（も）つ』『生命の真実を把握して居るもののみ、集団生活の指導者となることが許される』と述べ、続いて『鎌倉時代は靈の自然、大地の自然が、日本人をしてその本来のものに還らしめた』と述べ、天日と大地の交感道交の關係を自然の持つ靈性（生命）として高らかに記述している。

*

参加者の論議としては、ここで「大地性」とは、親鸞聖人や妙好人につながる意味でも大地の持っている「平等性」が強く主張されている。では、どうしたら人に「救いの考え」が生まれるのか？単なる「無常観」ではない事として「靈性」とは何か、ということが議論された。

この論文が戦時中の執筆であること、また、臨濟禅、宮沢賢治、柳田国男、そしてヘーゲルの「弁証法」の考え方も下敷きに推考す

る視点も大切では、といった多方面からの意見が出された。

「現世利益には宗教性がない」という指摘は農民の状況からみて少し言い過ぎでは、それを含んだものを宗教として見てはどうかという意見や、農民に直に入つてその声を聞くことが「目覚めの原点」だというのは、良寛さんや宮沢賢治の姿に繋がるのではとの意見も出た。

*

私は税を直に請け負い、取り仕切る富裕農民層（名主、百姓代）と下級官（郡司、受領、役人層）が、中央貴族の税の取り方と衝突する中から自ら、権利意識に目覚めていったこと、また大地の自然が環境の激変（地震、風害、旱魃、疫病）を通じて支配構造（「天命思想」や「御霊思想」）の管理限界に気づいてきたことが大地性の自覚への道であり、それを大拙氏は『大地が日本人を目覚めさせた』と表現していると思いたい。

次回（十一月二十日）の「日本的靈性の自覚」ではさらに詳細に論が展開される。さあ、「その大地による目覚め」が鎌倉時代どうう展開するのか、楽しみなどころである。

仏教と私

在家の仏教徒として

匿名希望
(会社員)

昨年、家を建てて引越しました。昔からの村なので近所にはいくつかの神社やお寺があります。最近、町内会の回覧板が届きました。ある神社の総代表名で出された通知です。そこには「国民の大神様（伊勢神宮）の御加護と、自然の恵みと、様々な食物を日々戴けることへ感謝の誠を捧げる為」の初穂料一戸当たり二百円の支払いに協力してほしいこと、十二月に行われる伊勢神宮の「新穀感謝祭」に住民を代表して参拝団が集めた賽銭をお供えに行くこととありました。その初穂料の取りまとめを組長と町内会長に依頼する内容でした。

ならず、町内活動を装っているように見えます。町内の依頼と誤認して初穂料を払う人がいるかもしれません。人間関係を円滑にしたいという心理から従う人もいるかもしれない。結果的に、町内会という看板によって従わせる危険性があります。民主主義の社会ですることではないはずです。

また住民の代わりに代表団が参拝すると言うことにも疑問がありました。在家の信仰は、自らの意思で、自らの身をもって、自らの費用でやるものです。

その後、町内の組長さんが初穂料の集金にやってきました。宗教活動には参加をしないことを理由に断りました。重たい空気が流れました。引越してきたばかりの場所で、人間関係を悪化させないか、不安がないわけではありません。それでも、宗教を政治的に利用した歴史がわずか七十年前にはあって、どれほどの悲劇を生んだのかを知っています。在家の仏教徒として、生活の中に看板を変えて入り込もうとするような宗教を見逃せません。



会費を募集しております

私どもは、皆様の会費によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

- ★年会費
- ★賛助会員 一万七千円（一口）
- ★正会員 八千円

会員へのサービス

★月刊誌「大法輪」を毎月お届けします

★機関紙「いのち尊し」を毎月お届けします

★講演会の動画を視聴できます

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

在家仏教通信

「大法輪十一月号」に在家仏教講演会の講演録が掲載されました

「罪としての労働と慈悲業としてのはたらく」

保坂俊司
(中央大学教授)

平成三十一年三月二十三日（土）中野サンプラザで開催されました連続講演会「宗教と労働」において、保坂先生よりお話を伺いました。保坂先生は「宗教的な思想を経済的な活動に結びつけた会社というものが、今後注目されていくでしょうし、これこそが日本的なる同哲学の基本になるのではないかと思うのです」と述べておられます。

連続講演会「宗教と労働」講演録のご案内

「宗教と労働を考える」
協合理事長 菅原伸郎
(大法輪五月号)

を控除することができます。

事例

年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合
20万円×2,000円=19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税

法人が支出する寄附金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合
① 一般損金算入限度額=（10億円×2.5/1000）+（1億円×2.5/100）×0.25
=125万円
② 別枠の損金算入限度額=（10億円×3.75/1000+1億円×6.25/100）×0.5
=500万円
したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。

「あらゆる仕事は『道』に通ず
鈴木正三に学ぶ」
中村元東方研究所主任研究員
加藤みち子
(大法輪六月号)

「生きるとは労働である」
駒澤大学名誉教授 田上太秀
(大法輪七月号)

「出家・在家・作務・労働をめぐって」
國學院大学名誉教授 宮元啓一
(大法輪八月号)

「はたらく力となる宗教 宗教社会学者ベラーと近江商人を中心に」
武蔵野大学名誉教授
ケネス田中
(大法輪九月号)

「非俗の実践」
明治学院大学名誉教授 阿満利磨
(大法輪十月号)

十月より事務局体制が一名となりました

事務所を留守にすることが多くなりますので、ご理解とご協力をお願い致します。不在の場合は、メールにてご連絡下さい。
(kamimura@zaikubukyو.com)

原稿をお待ちしています

- ◇随想「仏教と私」（八百字以内）
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
- ◇読者からの手紙（八百字以内）
講演会（講演録）の感想などをお書きください。
- ◇コラム「この一冊」（八百字以内）
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出しの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台二丁目三 五明館ビル二〇二 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkamimura@zaikubukyو.comです。